

☆実態及び課題

教科	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
国語	自分の考えを積極的に発表しようとする児童が多い。書くことについては、文章で自分の考えを表すことができる児童がいる一方で、ひらがなを正しく書くことや「は」「を」等の正しい使い方に課題が見られる児童もいる。	登場人物の気持ちをよく考えることができる児童が多い。話を最後まで聞くことや、新出漢字の定着に課題が見られる。	漢字のドリルやノートを丁寧に書く児童が多く、漢字小テストへの意欲も高い。文章を読んだり、書いたりする場面で正解かどうかを意識する児童が多い。多様な考えがある問いに対して積極的に取り組むことが課題である。	読みの力は高く、言葉に着目して文章を読むことができる。書く力は、段落構成などの準備をすれば文章を書くことができる。原稿を作らず、メモを使って発表することは苦手な児童が多い。	漢字練習では、テストに向けて新出漢字の練習に一生懸命取り組む子が多い。一方で、文章の構成を考えて書くことに難しさを感じている児童もいる。	積極的に自分の考えや思いを言葉にして伝えることを苦手と感じる児童が多い。反面、文章構成の型を知り、書くことで自分の考えや思いを伝えることができるようになってきている児童もいる。 【学力調査】目的に応じて、文章と図表を結び付けて、必要な情報を見つけることが苦手な児童が多い。
社会			実際に校外に出て見学をしたり、体験したりする機会が確保できないため、学習が内容の理解のみにとどまり、実感を伴った理解にまで繋がっていない。そのため、思考力を問う問題を苦手とする児童が多い。	学習意欲が高く、どの単元でも関心をもって学んでいる。働く人の話などの文書資料になるとどう読み取ったらよいか分からない児童がいる。また、調べたことから考えたことを書くことが苦手な児童もいる。	地図や資料をもとに正確に情報を読み取ることができている。また、日本の国土の特徴をタブレットを使って調べる学習には意欲的に取り組んでいる。一方で、調べたことから考えを深めることができない児童が多い。	歴史的事象や歴史的背景に詳しいなど、歴史学習に興味を示している児童が多い。一方で、学習内容に対して興味をもてなかったり、学習内容を十分に理解できなかったりする児童もいる。
算数	ブロックなどの具体物を使っての計算はできる。問題が文章で表されているとその場面が具体的に想像できずに、立式できない児童がいる。ブロックなどの半具体物に置き換えると、立式したり計算したりすることは、ほとんどの児童ができています。	算数への学習意欲が高い児童が多い。1位数同士の加減計算の定着が不十分なために2位数同士の計算でもつまづいている児童が数名いる。加減計算の答えの見直しの仕方に課題のある児童が数名いる。	事前に学習内容を知り、答えの求め方を覚えている児童は多い。しかし答えを出すことはできても、その意味の理解までは十分でない場合が多い。2年生までの九九を完全に習得できていない児童も数名いる。	かけ算やわり算など、基礎的・基本的な計算の力が身につけていない児童が数名いる。問題の意味は理解できても自分の考えを表現することに難しさを感じる児童が数名いる。	作図技能や図形の性質理解については、十分身に付いている児童が多い。小数のかけ算、わり算では、計算技能は高いが、問題に表されている数の関係を分かりやすく表現して立式することは苦手としている児童もいる。	小数のかけ算、わり算の計算では、位取りを間違える等の誤答が多い。基本的な文章問題は解答することはできても説明することに難しさを感じる児童が多い。作図を苦手とする児童も多い。 【学力調査】二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積を求める問題、帯グラフで表された複数のデータを比較し、読み取る問題につまずきが見られた。
理科			学習に対して意欲的である。モンシロチョウの観察や風やゴムの動きの実験など、どの単元も興味津々で取り組んでいた。問題作りから考察までの学習の一連の課程に慣れ、問題解決の基礎を身に付けることが課題である。	自分の身の周りの事象と学習内容が結びつかずに難しさを感じている児童がいる。また、実験内容と学習内容が結びつかず、科学的知識として学習内容が定着できていない課題がある。	発芽実験の水替えやメダカ世話など、多くの児童が熱心に取り組んだが、継続的に取り組むことが難しい児童も一部いた。顕微鏡を使った観察には、どの児童も高い興味関心を示したが、観察の視点など科学的な見方を伸ばしていく必要性を感じた。	実験に対し意欲的に取り組んでいる。問題・予想・方法・実験・結果・考察という一連の問題解決力が身につけている児童と予想から方法を考える際に意欲を失ってしまい、実験だけに意欲をもつ児童とが混在している。
生活	身のまわりの事象や自然や生き物について、気付いたことを積極的に発言したり、カードに記したりしている。一方で、観察したことをどのように表現すればよいか分からず、難しさを感じる児童も半数いる。	植物や生き物と触れ合ったり観察したりすることが好きな児童が多い。一方で、違いや特徴などの気付きを絵や文章等で表現することに課題が見られる児童が多い。				

音楽	音楽に合わせて拍を打ったり、リズムを打ったりする活動に意欲的に取り組んでいる。鑑賞では、音楽を聴いて気付いたことや感じたことを発達段階に応じて言葉にして表現できるようにしたい。	音楽に合わせた身体表現やリズムを打つ活動では、進んで学習に取り組む児童が多い。鍵盤ハーモニカの学習では、苦手意識をもつ児童が多く、技能に差が見られる。	低学年までの既習内容が定着していない児童が多い。そのために、新たに学習する内容に取り組むことが困難である。	音楽づくりでは、自分のイメージする雰囲気合った旋律を音楽の仕組みと結び付けてつくることができた。しかし、鑑賞では音楽を聴いて気付いたことや感じたことを言葉にして表現することが難しい児童がいる。	器楽合奏では、多くの児童が初めて扱う楽器に興味をもって進んで取り組むことができた。一方で、技能面で苦手意識をもっている児童もいる。	器楽合奏に意欲的に取り組んでいる。多くの児童が初めて取り組む楽器に興味をもち、協力して演奏する様子が見られたが、集中して学習に取り組むことが難しい児童もいる。
図工	活動の進め方を理解し、自分らしく表現できる児童が多い。一方、すでに苦手意識をもっていたり、失敗を恐れたりして、なかなか活動を始められない児童もいる。道具の安全な使い方や危険性の認識が課題である。	発想豊かで自分らしく表現できる児童が多い。一方で集中して取り組めない児童も数名いる。道具の安全な使い方や危険性の認識が課題である。	2年時より細かい作業も集中して取り組める児童が多くなってきた。しかし、お互いの授業態度について指摘し合う場面が多く、集中して制作する時間が短くなる傾向がある。	作品を完成するまでの一つ一つの過程を大切に、着実に積み上げていく児童が多い。一方でなかなか学習に取り組めない児童、表現内容に指導が必要な児童もいる。	発想豊かで、教師の助言をうまく自分の中で消化し、自分の表現として形に表すことができる。一方でアイデアが浮かばず時間が足りなくなってしまう児童もいる。	集中して話を聞いたり、取り組めない児童がいる。大事なことを伝える時や、安全指導を行う時に全員の集中力が教師に向くように注意を払っている。
家庭					初めての裁縫の学習に意欲的に取り組む児童が多い。しかし、基礎的な技能の定着に個人差が見られる。	裁縫など作業することには関心が高く、意欲的に取り組むことができる。一方、縫い方の手順等の指示を理解して取り組むことに課題がある児童が多い。
体育	動物の動きや友達の動きの真似をしたり、走る・跳ぶなどの活動に取り組んだりする中で、楽しく運動する姿が見られ始めた。一方で、体幹が弱く、姿勢の保持が難しい児童もいる。	体を動かすことが好きで、体育の学習を楽しみにしている児童が多い。本年度は初めてのプールの学習も、きまりを守って楽しく取り組んでいた。勝敗のつくゲームで負けを受け入れることに課題が見られる。	体育の学習が好きな児童は多い。一方で個人の能力差が大きい。また、負けず嫌いな児童も多く在籍しており、勝ち負けにとらわれ、運動の楽しさを味わえていない。	進んで運動に取り組む児童が多い。体の動かし方や技のポイントを友達と伝え合いながら学習している様子も多く見られる。一方で、友達からのアドバイスや教師からの助言を生かして運動の仕方を工夫することに難しさを感じる児童も数名いる。	運動することへの興味関心は高い。協力的にアドバイスしたり、補助したりして助け合って運動できる児童が多い。リズムに合わせて動いたり、体幹をぶれさせずに動いたりすることが苦手な児童が数名いる。	運動に意欲的に取り組む児童が多い。リレーの学習では、バトンパスの技能向上を目指して自分たちで練習方法を工夫していた。マット運動では、互いの動きを見合い、アドバイスをする様子が見られた。一方で、チームでの練習に進んで参加しない、友達の動きを見ようとしめないなど、友達との関わりに対して消極的な児童がいる。
道徳	授業の中ではよく考え、自分の思いを積極的に発表しようとする等、意欲的に取り組む姿が見られる。しかし、語彙の少なさから自分の思いが十分に伝えられないという課題もある。	役割演技で自分の考えを表すことが得意な児童が多く、友達の考えを聞いて共感する姿も見られる。一方で、自分の考えを表現することに苦手意識をもっている児童も多い。	友達の考えを聞いたり自分の考えを伝え話し合ったりするなど道徳の授業が好きな児童が多い。しかし、自分の考えにこだわる児童も多く、多種多様な考えを認めたり、相手の気持ちを考えたりすることが課題である。	自分の考えだけでなく、友達の考えも大切にする姿が見られる。書いて表現することが苦手な児童が見られる。	多くの児童が自分の意見をもち、発言することができる。発言頻度や、考えの深め方など、取り組む姿勢の個人差は大きい。	友達の考えを受け止められる児童がいる一方で、「その考えは違うのではないか」と自分との違いを受け止められない児童もいる。
外国語					聞くこと・話すことについてはほとんどの児童が十分な力を身に付けている。特に話す力は高い。書くことについては、アルファベットが正しく書けなかったり、大文字、小文字が混じってしまったりするなど個別指導が必要な児童も数名いる。	外国語を聞き慣れている児童とそうでない児童とがいる。そのため、聞き取る力に差が見られる。また、書くことにおいても、単語やセンテンスを理解している児童はすらすら書けるが、そうでない児童は、なかなか書き進められない現状がある。

☆課題解決の視点・手立て ※取り組む内容 課:課題 学:学習形態 発:発問・指示・板書 教:教材の工夫

教科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	視点・手立て	評価・修正	視点・手立て	評価・修正	視点・手立て	評価・修正	視点・手立て	評価・修正	視点・手立て	評価・修正	視点・手立て	評価・修正
国語	<p>課日常的に日記など文を作る課題を提示し、助詞などを含めたひらがなの練習・文の書き方などを個別に指導を行う。</p> <p>教ワークシートを効果的に使用し、書く負担が重くならないようにする。</p>	<p>課日記など、作文の課題に多く取り組ませることで、助詞や文字・文の書き方が向上した。</p> <p>教ワークシートを使用することで考える時間を増やすことができた。内容をより精査していく。</p>	<p>課友達の話を書いた、自分の意見を伝えたいと思える教材の工夫を行う。</p> <p>発漢字指導では、成り立ちや似ている漢字を扱い、新出漢字を覚える工夫をする。</p>	<p>課話す・聞く機会を増やすことで、話し方や聞き方の定型が少しずつ身に付いた。</p> <p>発漢字の形に注目させることで、少しずつ新出漢字を定着することができた。</p>	<p>学教師が多様な考えを認めて学級全体に広げていく。また、全体で発表する前に、個別に声掛けを行い、自信をもって発言できるようにする。</p>	<p>学多くの児童の様々な考え方を共有することができた。また、発表することに対して消極的な児童に対しては、担任が代わりに伝えるなどして共有を図った。</p>	<p>課メモをもとに話をする機会や、メモなしで意見を話す機会を増やし、話す力を伸ばしていく。</p>	<p>課毎週全校朝会の校長講話を聴き取り、メモをし、感想を書く活動が続けた。それにより、意見をもったり、発表やスピーチに生かすことができる児童が増えた。</p>	<p>教説明文を読み、「初め」「中」「終わり」の役割や構成を確認する。さらに文章の構成メモを活用していく。</p>	<p>教「初め」「中」「終わり」の組み立てを意識させた意見文を書く機会を何度も設けたことで、筋道を立てて表現する力を高められた。</p>	<p>学様々な学習形態で交流する機会をもち、自分の考えや思いを伝える中で、自分の考えを伝えることの楽しさを味わわせていく。</p> <p>【学力調査】</p> <p>発文章の内容がどの図表を指しているのか確認しながら学習を進めていく。</p>	<p>学様々な学習形態で交流する機会をもつことで意欲的に自分の考えや思いを伝えることができる児童が増えた。</p> <p>発文章の内容がどの図表を指しているのか、自分で確認しながら学習を進めることができるようになってきた。</p>
社会					<p>学実際に体験できない分、ICTを活用した映像資料の視聴や、地域の地図を使った学習などを通して実感を伴った理解を促していく。</p>	<p>学消防署や警察署の方から実際にお話を聞いたり、ICTを活用した資料を使ったりして、学習を進めたことで、より深い理解に繋げることができた。</p>	<p>発資料を読み取る視点を示し、資料から何が分かるかを確認していく。</p> <p>学話し合い活動を取り入れ、調べた事実から社会的事象の意味について考えられるようにしていく。</p>	<p>発視点を示して読み取ることで、資料から事実を読み取れるようになった。</p> <p>学なぜ人々がこの取り組みをしているか問い、話し合ってみることで、社会的事象の意味に迫ることができた。</p>	<p>学調べたことから考えが広げられるように、友達と意見を交流する機会を多く設ける。また、疑問に思ったことは積極的に調べるようにしていく。</p>	<p>学タブレットを活用して調べていくことで、積極的に調べていく意欲が高まった。</p> <p>教オクリンクというアプリ上で情報共有機能を使って、意見を交流することを通して、考えを広げることができた。</p>	<p>学NHKforschoolの映像を積極的に活用し、興味関心を高め、理解の定着を図っていく。</p>	<p>学NHKforschoolの映像を活用したことにより、歴史に対する興味、関心を高めることができた。また、学習後に映像を見せたことで、より理解を深めることができた。</p>

算数	<p>発分かっていない数と求める数に線を引いたり囲んだりして、問題場面を理解できるようにさせる。</p> <p>学自分が立てた式について、理由を説明させる中で、式の意味について指導していく。</p>	<p>発問題文や絵を見ながら、正しく立式することができるようになった。</p> <p>学立式について、正しいと思う理由だけでなく、間違っただけの理由を説明することができるようになった。</p>	<p>課朝学習の時間に、ベーシックドリルを活用し、1年生の簡単な計算の復習を繰り返し行い、1位数の計算を定着させる。</p> <p>学答えが大体いくつになるのか見積もったり、検算をしたりして、日頃から誤答を防ぐための方法を指導する。</p>	<p>課朝学習の時間に毎週復習の時間を確保したことで、既習事項の定着を図ることができた。ポツクス君(位取り表)を用いることで繰り上がり繰り下りの加減の仕方についての理解を促すことができた。</p> <p>学計算する前に見積もりの仕方を指導し、だいたいの数を考えて計算できるようになった。</p>	<p>課習熟度別のコースごとに単元導入の内容を工夫したり、実態に合った難易度の学習課題を用意したりする。</p> <p>学自分の考えを図や数直線など、多様な方法で表すことで意味の理解を深める。</p>	<p>課計算の技能や知識には個人差が見られる。実態に合った学習課題に取り組んだことで、基礎的な計算や作図の技能は上達した。継続して指導していく。</p> <p>学アレイ図や数直線などの様々な方法で自分の考えをまとめることができた。</p>	<p>学授業の導入で既習内容の復習をしたり、宿題に繰り返し取り組んだりすることで、計算力の向上を図る。</p> <p>発まずは文章題で何が問われているのかを捉えさせる。そして自分の考えを図や言葉で表し、説明する活動を取り入れる。</p>	<p>学じっくりコースでは、毎回既習事項の復習をすることで、定着度が高まり、ワークテストでもよい結果につながった。</p> <p>発何を問われているか等、問題文に線を引くことで、問題の構造をつかむことができるようになった。また当初に比べて、図や数直線などを用いた多様な方法で自分の考えを表せるようになってきた。</p>	<p>教習熟度別のコース別に問題の内容や数値を工夫し、児童の実態に合った学習になるようにしていく。</p> <p>学数直線は5年生の算数の学習では多く使われるため、効果的に活用できるように丁寧に指導していく。</p>	<p>教提示する数値の妥当性や難易度を考えて工夫した課題を設定した。</p> <p>学数直線の指導を丁寧にやったところ、算数を苦手とする児童が数直線を積極的に活用して、立式する姿が見られた。</p>	<p>課小数の計算では、ベーシックドリルを活用したり、日々の学習で丁寧に文字を書いたり、位をそろえて書いたりするよう声をかけたりして誤答を減らしていく。</p> <p>発文章題では、自分の考えを図や言葉で表し、説明する活動を多く取り入れる。</p> <p>【学力調査】</p> <p>課図形の面積の求め方を多様に考えさせたり、データから推測できることを多面的に考えさせたりするなど思考力を高める指導を積み重ねていく。</p>	<p>課小数の計算では、日々の学習で繰り返し学習することで誤答を減らすことができるようになってきている。</p> <p>発文章題では、自分の考えを図や言葉で表し、説明する活動を多く取り入れたことで、成果が出始めている児童が多い。</p> <p>課データをもとに、多面的に物事を考えていく力は、現在の単元で高めているところである。</p>
理科					<p>学3年生の理科に対する興味関心を大切にする。問題→予想→計画→実験・観察→結果という流れを繰り返すなかで問題解決の基礎を養う。</p>	<p>学理科に対する興味関心が高くなる。単元も目を輝かせながら授業に参加していた。問題解決サイクルの基礎を身に付けることができた。</p>	<p>教日常生活の中で自然現象を適宜取り扱い、意識づけをさせていく。実験内容とその結果や考察とが結びつくように板書を整理して書くよう工夫する。</p>	<p>教単元や一単位の導入を、日常の自然現象から行うことで意欲が向上した。また、結果から考察することを指導してきたが、定着まで引き続き指導が必要である。</p>	<p>教できるだけ、一人一人が自分で実験を行い、科学的な思考だけでなく、実験そのものへの関心を高めている。</p> <p>発結果(事実)と分かったこと(考察)の違いを意識させる授業の展開を工夫する。</p>	<p>教電磁石の学習では、個別に実験を行わせたことで実験への関心が高まった。</p> <p>発実験方法を考えさせる際には、同じ条件、変えた条件を明確にさせて、結果との因果関係がはっきりわかるようにした。</p>	<p>課教科書の言葉をそのまま課題にするのではなく、児童の思考に沿った言葉で本時の学習課題を考える。</p> <p>発予想や計画も意欲的に考えていけるよう発問を工夫する。</p>	<p>課児童の思考に沿った言葉で学習課題を提示したことで、一連の問題解決力(問題・予想・方法・実験・結果・考察)が身に付いてきている。</p>

生活	<p>発 児童の気付きの質を高められるような助言や発問を心がける。</p> <p>教 児童の気付きが高められるように、掲示物や板書等を工夫する。視覚的に振りかえられるように、ワークシート等も工夫する。</p>	<p>発 児童の気付きが多く出た。児童の気付きから、児童同士で発言を広げることができた。</p> <p>教 板書の際、大切なことをわかりやすく記すことで、児童が様々なことに気付けるようになった。</p>	<p>発 観察を行う前に、全体で観察の視点や用語の使い方などを共有する時間を設ける。視点を示し、自分の観察カードをかく際に生かせるようにする。</p>	<p>発 観察カードをかく際に視点を示したことで、観察して気付いたことをかいて表現する力が少しずつついてきた。</p>								
音楽	<p>発 低学年向けの音楽を表す語彙表の掲示をする。また、児童が参考にしながら学習できるように、わかりやすい言葉での発問や板書を工夫する。</p>	<p>発 わかりやすい言葉で発問や板書をするので児童は音楽から感じたこと、気付いたことを言葉で表現することができた。</p>	<p>教 鍵盤ハーモニカの運指が視覚的に理解できるようにICT機器を活用したり、必要に応じて個別の指導を行ったりする。</p>	<p>教 鍵盤ハーモニカの学習では、個別の指導を行ったり、合格カードを活用したりすることで、目標をもって学習することができた。</p>	<p>課 学習を進めていく中で児童の実態を見ながら復習を取り入れ、既習内容の定着を図る。</p>	<p>課 学習内容の定着は個人差が見られる。既習内容や技能面を含め個別指導しながら引き続き定着を図る。</p>	<p>発 中学年向けの音楽を表す語彙表を教室に掲示し、児童が参考にしながら学習できるようにする。</p> <p>学 児童同士の伝え合う活動を行い、全体で共有を図りながら表現の幅を広げていく。</p>	<p>発 音楽から感じたこと、気付いたことを言葉で表す際に語彙表を参考にすることでその後の表現活動につながった。</p> <p>学 児童の発言や演奏を積極的に取り上げ、全体で共有したことで、友達の考えや演奏のよさを自らの表現の工夫に生かすことができた。</p>	<p>発 児童一人一人に応じた個別指導を行う。</p>	<p>発 自分たちの思いや意図を表現するための知識と、それを表現するための技能が身に付いてきた。活動に消極的な児童には意欲が高まるような声掛けや技能面での個別指導を引き続き行う。</p>	<p>課 学年の実態に合った題材の工夫や課題の設定を行う。</p> <p>発 個別指導をしながら学習活動への参加を促していく。</p>	<p>課 児童が興味や意欲をもって自ら進んで活動できるよう、合奏では曲想に合った楽器、表現したいイメージに合う楽器を話し合っ決めてことで、進んで活動する姿が見えた。</p> <p>発 活動に消極的な児童には意欲が高まるような声掛けや、技能面での個別指導を引き続き行う。</p>
図工	<p>教 新しい素材との出会いや道具の新しい使い方を知ることを通して、創作意欲を刺激し、活動に関心をもちたせる。</p> <p>発 個に応じて声をかけたり、褒めたりして活動を楽しめるようにする。</p>	<p>教 新しい素材との出会いや道具の新しい使い方を知ること、興味関心をもって活動に取り組むことができた。</p> <p>発 机間指導を増やし、多くの児童に声をかけることで活動を楽しむ児童が増えた。</p>	<p>教 新しい素材と出会う機会を多くもつようにすることで、創作意欲を刺激し、なかなか取り組めない児童にも関心をもたせる。</p> <p>学 道具への危険意識や安全指導を含め、全体に継続して指導する。</p>	<p>教 新しい素材に触れたり、初めて使う道具で自信をもてたりしたことが、多くの児童の経験値となった。</p> <p>学 慎重に道具と向き合い、安全な使用を意識しながら使用できた。</p>	<p>課 児童同士が互いの授業態度を指摘し合う場面では自分の作品と向き合わせ、具体的に次に何をするかイメージをもたせる。担任と連携して、表現活動に集中できる環境づくりをする。</p>	<p>課 図工の授業を通して「思いやり」について何度か声をかける場面があった。自他の作品の良さや違いに気付けた発言があった。</p>	<p>発 イメージしやすい言葉がけをしたり、イメージを表現するまでのプロセスを助言したりする。</p> <p>学 互いに見合う時間を設け、友達の良さから学び、児童同士が高め合えるようにする。</p>	<p>発 導入時、児童が興味・関心をもてそうな例を取り上げ、単元に入るまでの気持ちを大切にされた。</p> <p>学 互いに見合う時間を設けた結果、もう一度自分の作品に手を加え作品を深める姿が見られた。</p>	<p>教 発想の豊かさをさらに伸ばすために多方面に展開のしやすい教材を開発したり、素材選びをしたりする。</p> <p>発 児童がイメージしやすい声掛けを行う。</p>	<p>教 いくつかの工程を経て完成にたどり着く作品に取り組み、思いがけなかった深みが作品に出たことを実感させられた。</p> <p>発 発想することが苦手な児童には身近にあるものからヒントを出した。</p>	<p>発 個に応じて声をかけ、作品や表現の良さを教師が褒めて、自分の作品や表現に対して自信をつけられるようにする。</p>	<p>発 他の人にはない個の良さを、わかりやすい言葉で伝えた。自分にしか出せない良さを認識し、嬉しそうな表情を浮かべた児童が何人も見られた。</p>

家庭									<p>学裁縫の手順の説明を細かく示したり、電子黒板で実際に見せたりして、裁縫の基本を指導する。また実態に応じて個別に支援を行う。</p> <p>課トライカードを活用し、学校で学んだことを家で実践し、家族の喜びを次のやる気につなげる。</p>	<p>学自分の裁縫箱を持ったことで、裁縫への意欲が高まった。めあてや活動内容を明示することで、スムーズに活動に取り組めた。</p> <p>課家での実践をトライカードにまとめることにより、家庭への周知と児童の意欲につながった。</p>	<p>学裁縫の手順を細分化したり、一つ一つの実技のやり方を示したりして、自分の力で取り組めるようにする。</p> <p>教裁縫は複数の制作例を提示することにより、実生活で使おうと思える物を製作する。</p>	<p>学細分化された資料を見て、取り組むことのできる児童も多くいたが、教師の話聞くだけで取り組まない児童もいた。</p> <p>教複数の製作例から自分で選ぶことにより、作る意欲につながることができた。</p>
体育	<p>学友達と一緒に運動する際に、学び合いの仕方や意識する視点などについて丁寧に指導する。</p>	<p>学意識する視点を最初に伝えることで、待っている間も友達の動き方を見て学ぶという学び方が身に付いた。</p>	<p>学鬼遊びやミニリレー等、勝敗がすぐに決まる簡単なゲームを繰り返していき、勝敗が全てではなく、運動自体を楽しむ姿を価値づける。</p>	<p>学勝敗がすぐに決まる遊びを繰り返していき、負けても怒らないことや運動自体を楽しむことができる児童が増えた。一方で、まだ勝敗を受け入れられない児童もいる。</p>	<p>学勝ち負けをつける楽しさではなく、運動本来のおもしろさを味わわせていきたい。勝敗ではなく、自己の記録や能力を伸ばすことを中心に考え授業を構成していく。</p>	<p>学自己の技能を高めるために、お互いに技を見合う機会をつくった。その中で友達の動きの良さを自分に生かそうとする姿が見られた。</p>	<p>教言葉だけで助言し合うのではなく、互いの動きを見合ったり、タブレットで動きを撮影したりして、自分の動きに生かしていくようにする。</p>	<p>教ポイントタイム、アドバイスタイムなどの学習活動やタブレットで自分の動きを振り返る時間を授業の中で設けることで、動きのポイントを理解して運動に生かすことができる児童が増えてきた。</p>	<p>教個人差に応じた場を複数準備することで、一人一人の力に合わせて運動技能を高められるようにする。</p> <p>課巧緻性を高める体づくりの運動を多く取り入れた授業プランを立てるようにする。</p>	<p>教跳び箱の段数を変えたり、踏切位置を変えたりする場を複数用意して実技練習を行わせた結果、個の運動技能が高まった。</p> <p>教めあてを振り返るカードを作成して取り組ませた結果、思考と運動が結びつくようになった。</p>	<p>課意欲的に取り組む児童が多いので、さらに「やってみよう」という意欲をかき立てられるよう、児童一人一人の力に合った動きや技を提示するようにする。関わりに対して消極的な児童について、個別に声をかけ、意欲を高められるようにする。</p>	<p>課児童の興味や能力に適した技を紹介したことで、学習意欲がさらに高まるとともに、技能の向上につながった。</p> <p>友達との関わりが少ない児童については、よい関わりを進んで認めるようにした。</p>
道徳	<p>学児童が自分の考えを伝え易くするために、動作などでも表現できるようにする。</p> <p>教吹き出しのワークシートや登場人物へのお手紙などの教材を用意し、児童が日常の話し言葉でも表現できるようにする。</p>	<p>学動作化や劇化等で表現させることで、自分自身の考えを表現する児童が増えた。</p> <p>教吹き出しのワークシート等を使用することで、話言葉で表現することができ、多くの考えを表現することができた。</p>	<p>発児童が自分の意見をもちやすいような発問の工夫を行う。</p> <p>発机間指導の際に個別に声を掛け、自分の意見に自信をもつことができるように支援する。</p>	<p>発発問の吟味、厳選をすることで、児童に価値項目について考えさせることができた。また、挿絵を活用することで自分の考えを表現したいと思えるようにしていく。</p>	<p>発ワークシートや発問の厳選で児童が自分の考えを明確にもてるように支援する。今後役割演技等で自分の考えを話しやすいように工夫する。</p>	<p>発発問の工夫や、役割演技をすることで、登場人物の気持ちになって考えたり、自分だったらどうするか自分の考えを話したりすることができた。</p>	<p>発児童が自分の考えを表現する時間を多くとるため、中心発問を吟味する。グループ交流の時間をとり、いろいろな意見を知ること、自分の考えを表現する力を伸ばす。</p>	<p>発発問を精選することでねらいとする価値に迫ることができた。</p> <p>また友達のいろいろな意見を知るように工夫したことで、自分の考えをもつことが苦手な児童も意見を書いて表現することができた。</p>	<p>発一斉指導での発表や話し合いだけでなく、グループでの話し合いやロールプレイなどを取り入れ、一人一人が自分の課題として学習に取り組めるようにする。</p>	<p>学ロールプレイはまだ十分取り入れたとはいえない。残りの学習で積極的に機会を設けていきたい。</p>	<p>課全体交流の時間を多く設定し、たくさんの友達の考えに触れられるようにするとともに、どうして人によって考え方が違うのかについても考えられるようにする。</p>	<p>課全体で交流する時間を授業の随所に設定したことで、様々な考えに触れることができた。</p> <p>また、教師がそれらの考えを受け止めたことで、他者のどんな考えも受け止めようとする姿が見られるようになった。</p>

<p>外国語</p>									<p>教英文を書かせる機会を増やしながらも、過度の困難さや負担を感じることはないよう、工夫したワークシートを準備する。</p>	<p>教ワークシートを工夫し、英文を書かせる機会を増やした結果、書き取る力が大きく向上した。今後は個人差を意識して、英作文を苦手とする児童への支援を行う。</p>	<p>課リスニングの時間を多く取るようにする。その際、どんなことを聞き取ることができたのかを全体で確認し、再度聞いて、理解を深められるようにする。</p>	<p>課ALTに繰り返し発音してもらい、何が聞き取れたかを問う学習を継続したことで、少しずつではあるが、聞く力が高まってきている。</p>
------------	--	--	--	--	--	--	--	--	---	---	---	---